

## 第 147 回医療ビジネス研究会のご案内

医学・公衆衛生の研究成果により、妊娠前の男女の健康管理状態と子の疾病リスク因子に相関があることが明らかになってきました。この成果を踏まえ、2006 年には米国疾病管理予防センター(CDC)が「妊娠前の健康管理」として「プレコンセプションケア(PCC)」の普及を開始し、2013 年には世界保健機構(WHO)が PCC に関するガイドラインの制定とその普及促進活動を開始しました。また、妊娠前健康管理は当事者本人の生涯に渡る QOL の向上と疾病予防にも寄与することも明らかになっています。

日本におきましても妊娠・出産に関わる課題が山積しています。例えば、低出生体重児(2,500g 未満)の割合が 5.1%(1975)から 9.6%(2013)と増加しています。その原因の一つに過度のダイエットの影響か妊娠前の低栄養状態が指摘され、国民健康・栄養調査によれば、20 代女性の約 5 人に 1 人が「やせ型」とされています。人工妊娠中絶や性病罹患の若年化傾向に加え、梅毒に関しましては 2011 年以降増加しています。その原因として外国人からの感染増加と病に対する知識不足が指摘されています。

また、多くの先進国では子宮頸がんは減少していますが日本では引続き増加傾向にあり、罹患者は年間 1 万人、死亡者は 3,000 人と少なくありません。性交開始年齢が早まっている事や、子宮頸がん検診の受診率が 2 割程度と著しく低いことが原因のようです。HPV ワクチンの積極的な接種勧奨が中止されるなど、妊娠・出産はもとより健康に大きな影響を与えるにもかかわらず健康意識の低さは否めません。

WHO の活動に呼応して日本でも 2015 年に国立成育医療研究センターにプレコンセプションケアセンターが開設されましたが、PCC を体系的に学べるプログラムや機会がなく、医療従事者の間でも認識不足が常態化しています。PCC の対象者は、疾患が顕在化していない健康な男女ですので、医療機関からのアプローチには多くを期待できません。PCC の普及・浸透には若いうちから適切に対処する必要があります。そのため、行政、学校、職場、地域など、多面的啓発ネットワークの構築が求められます。

今回は日本におけるプレコンセプションケア(PCC)の普及・浸透に取組み、PCC カレッジ立上げの発起人でもある矢込氏(助産師、看護師が集まる「Concetto(コンツェット)」の共同代表)と弊社理事の安藤氏より話をうかがいます。課題が山積する現状を打開する PCC を学ぶプログラムの策定から、それらの啓発活動を実践する PCC カレッジ構想、さらに PCC 領域に関わるテクノロジーの活用事例や PCC 領域のビジネスに関する可能性に至るまで解説戴きます。

PCC に興味を持たれる方や医療従事者はもとより、教育関係者、人事部門関係者や企業経営者にもご参加頂き、PCC 普及・浸透に関し皆様と有意義なディスカッションをさせて戴きたくご案内申し上げます。

2019 年 11 月

特定非営利活動法人 医療事業再生機構

### 記

- テーマ:「日本におけるプレコンセプションケア(PCC)普及への取組み」=PCC カレッジ構想から=
- 講師:矢込香織 氏 看護師、Concetto 共同代表、および安藤彰規 氏 コニカミノルタ(株)BIC Japan、(特非)医療事業再生機構 理事、
- 開催日時:2019 年 12 月 6 日(金曜日)18:30~20:30

以上

※ 医療ビジネス研究会への参加は受講票が必要です。受講票は HP よりお申込ください。